

CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)安城市三河安城本町 計画	階数	地上15階
建設地	愛知県安城市三河安城本町2丁目3-3,3-4,3-5,3-6	構造	RC造
用途地域	商業地域	平均居住人員	408人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2025年8月 予定	評価の実施日	2023年5月31日
敷地面積	1,922 m ²	作成者	神蘭 亘
建築面積	718 m ²	確認日	2023年5月31日
延床面積	8,204 m ²	確認者	安田 斉嗣



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.3 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

30%: ★☆☆☆☆ 60%: ★☆☆☆☆ 80%: ★☆☆☆☆ 100%: ★☆☆ 100%超: ★

標準計算

①参照値	184 (kg-CO ₂ /年・m ²)	100%
②建築物の取組み	58	36%
③上記+②以外の	126	36%
④上記+	138	36%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 **Qのスコア = 2.9**

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

LR 環境負荷低減性 **LRのスコア = 3.5**

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.6

3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>5.0</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>1.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>43.2 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	43.2 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	43.2 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>2.6</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <table border="1"> <tr> <td>〈外装材に使用した地域性のある材料〉</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉</td> <td>なし</td> </tr> </table>	〈外装材に使用した地域性のある材料〉	なし	〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉	なし
〈外装材に使用した地域性のある材料〉	なし				
〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉	なし				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
 (仮称)安城市三河安城本町 計画

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル:
 ■評価ソフト:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
 CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄						全体
配慮項目	独自基準	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体		
	重点項目								建物全体・共用部分	建物全体・共用部分
Q 建築物の環境品質									2.9	
Q1 室内環境									3.3	
1 音環境									3.1	
1.1 室内騒音レベル									3.0	
1.2 遮音									3.0	
1 開口部遮音性能									3.0	
2 界壁遮音性能									3.0	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)									3.0	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)									3.0	
1.3 吸音									3.0	
2 温熱環境									3.8	
2.1 室温制御									4.0	
1 室温									3.0	
2 外皮性能									3.0	
3 ゾーン別制御性									3.0	
2.2 湿度制御									3.0	
2.3 空調方式									3.0	
3 光・視環境									2.5	
3.1 昼光利用									2.3	
1 昼光率									0.3	
2 方位別開口									1.8	
3 昼光利用設備									3.0	
3.2 グレア対策									3.0	
1 昼光制御									3.0	
3.3 照度									3.0	
3.4 照明制御									3.0	
4 空気質環境									3.6	
4.1 発生源対策									3.6	
1 化学汚染物質									4.0	
4.2 換気									4.0	
1 換気量									3.0	
2 自然換気性能									3.0	
3 取り入れ外気への配慮									3.0	
4.3 運用管理									3.0	
1 CO ₂ の監視									3.0	
2 喫煙の制御									3.0	
Q2 サービス性能									3.2	
1 機能性									3.7	
1.1 機能性・使いやすさ									3.4	
1 広さ・収納性									3.0	
2 高度情報通信設備対応									3.0	
3 パリアフリー計画									3.0	
1.2 心理性・快適性									4.0	
1 広さ感・景観 (天井高)									3.0	
2 リフレッシュスペース									3.0	
3 内装計画									4.0	
1.3 維持管理									3.5	
1 維持管理に配慮した設計									3.0	
2 維持管理用機能の確保									4.0	
2 耐用性・信頼性									3.0	
2.1 耐震・免震・制震・制振									3.0	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)									3.0	
2 免震・制震・制振性能									3.0	
2.2 部品・部材の耐用年数									3.3	
1 躯体材料の耐用年数									5.0	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔									2.0	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔									3.0	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔									3.0	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔									5.0	
6 主要設備機器の更新必要間隔									2.0	
2.4 信頼性									2.6	
1 空調・換気設備									3.0	
2 給排水・衛生設備									3.0	
3 電気設備									3.0	
4 機械・配管支持方法									3.0	
5 通信・情報設備									3.0	

3 対応性・更新性				0.2	2.8	0.29	2.8	2.8	1.00	2.8
3.1 空間のゆとり				-	-	-	2.6	2.6	0.50	
1	階高のゆとり			-	3.0	-		3.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ			3.0	3.0	-		2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	-		3.0	0.50	
3.3 設備の更新性				1.0	2.8	1.00				
1	空調配管の更新性	②		-	3.0	0.17				
2	給排水管の更新性			3.0	2.0	0.17				
3	電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11				
4	通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11				
5	設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22				
6	バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22				
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30				2.2
1 生物環境の保全と創出		独自③		-	1.0	0.30				1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		-	3.0	0.40				3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.5	0.30				2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		-	2.0	0.50				
3.2 敷地内温熱環境の向上			十分な緑地面積を確保	-	3.0	0.50				
LR 建築物の環境負荷低減性										3.5
LR1 エネルギー					-	0.40				4.0
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=-	3.0	4.0	0.33				4.0
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.17				3.0
3 設備システムの効率化			BEI=0.71	3.0	5.0	0.33				5.0
4 効率的運用				0.1	3.0	0.17				3.0
集合住宅以外の評価				-	-	-				
4.1	モニタリング			3.0	3.0	-				
4.2	運用管理体制			3.0	3.0	-				
集合住宅の評価				1.0	3.0	1.00				
4.1	モニタリング			-	3.0	0.50				
4.2	運用管理体制			-	3.0	0.50				
LR2 資源・マテリアル					-	0.30				2.7
1 水資源保護				0.1	2.2	0.15				2.2
1.1 節水				3.0	1.0	0.40				
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60				
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	1.00				
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	-				
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	2.5	0.63				2.5
2.1 材料使用量の削減				-	3.0	0.07				
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.25				
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	-	3.0	0.21				
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	-	3.0	1.0	0.21				
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	-	-				
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自		3.0	3.0	0.25				
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.6	0.22				3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32				
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	4.0	0.68				
1	消火剤			-	-	-				
2	発泡剤(断熱材等)		ODP=0かつGWPの低い断熱材を使用	-	5.0	0.50				
3	冷媒			3.0	3.0	0.50				
LR3 敷地外環境					-	0.30				3.6
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率36%	-	5.0	0.33				5.0
2 地域環境への配慮				0.3	2.8	0.33				2.8
2.1 大気汚染防止				-	3.0	0.25				
2.2 温熱環境悪化の改善				-	3.0	0.50				
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	2.5	0.25				
1	雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25				
2	汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25				
3	交通負荷抑制	独自		-	3.0	0.25				
4	廃棄物処理負荷抑制			-	1.0	0.25				
3 周辺環境への配慮				0.3	3.1	0.33				3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40				
1	騒音	独自		-	3.0	1.00				
2	振動	独自		-	-	-				
3	悪臭			-	-	-				
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40				
1	風害の抑制			-	3.0	0.70				
2	砂塵の抑制			-	3.0	-				
3	日照障害の抑制			-	3.0	0.30				
3.3 光害の抑制				0.2	3.7	0.20				
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		チェックリストの項目の一部を満たし広告物照明の設置無し	-	4.0	0.70				
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30				

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策			5.0
LR3-1	地球温暖化への配慮	5.0	0.10
② 資源の有効活用			2.6
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09
Q2-3	対応性・更新性	2.8	0.09
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.5	0.19
③ 敷地内の緑化			1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09
			外構緑化:43.2%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-
			なし
			なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化
 重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和
 重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用
 重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)安城市三河安城本町 計画

計画上の配慮事項	
総合	有害性が低く、耐用性に優れた建材を用いる計画とし、温熱環境や省エネルギー性に配慮することで、長期的に有効な住環境を得られるよう努めた。
Q1 室内環境	室内環境の向上をめざし、F☆☆☆☆建材を使用した。
Q2 サービス性能	共用部分に、耐用性に配慮した配管仕様、躯体材料を用いる計画とした。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地内に緑地を配置することで敷地内温熱環境の低減に努めた。
LR1 エネルギー	各住戸が外皮に二方向面するよう計画することで有効な換気・通風を確保した。
LR2 資源・マテリアル	有害物質を含まない建材を使用して室内環境の向上に努めた。
LR3 敷地外環境	LCCO ₂ の排出量を低くするよう努め、地球温暖化に配慮した。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。